

第3章 計画の大綱

1 基本理念

**奈良で働き暮らす男女が自らの力を最大限発揮して、
ひとりひとりの幸せを実現し、発展する奈良県を目指す**

2 基本目標

- 「ワーク・ライフ・シナジー」※の視点に立ち、仕事でも、生活でも、自分らしく力を発揮し、幸せを感じられる男女を増やす
- 固定観念の払拭など社会全体の意識の変化を促し、誰もが働きやすく暮らしやすい活力ある奈良県をつくる

※「ワーク・ライフ・シナジー」とは・・・「日常生活の充実と仕事の充実が互いに好影響を与えること」

「ワーク・ライフ・シナジー」は、「ワーク」と「ライフ」を相対するものと考えのではなく、ワークとライフは相互に影響し合い、高め合う相乗効果(シナジー)を生み出すとする考え方です。「ライフ」を充実させることで、発想や人脈の広がり、健康の維持などの効果が生まれ、そのライフの中から生まれる経験を「ワーク」に活かすことで、「ワーク」の生産性がより高まっていくという好循環のスパイラルアップです。

「ライフ」から「ワーク」へのシナジーの例としては、「子育て中の親が、子どもの自由な発想力から自分の仕事のヒントを得る」や、「働きながらの子育ての中で時間を有効に使い、仕事を効率的に行うことができるマネジメント力・コミュニケーション力が身につく」などが上げられます。また、「旅行やボランティアをすることで人脈ができたり、視野が広がる」といった、直接的に仕事へのよい影響を与える効果が考えられます。



【イメージ図】

3 目標達成に向けたプロセス

この計画の基本目標を達成するためには、具体的な仕組みをつくり、根付かせることを意識した施策を推進することにより、まず個人の行動を促し、次に社会全体に広げていく必要があります。よって、次のプロセスにより進めていきます。

① 「主体的に選択して過ごす時間」を意識した新しい働き方・暮らし方の普及

奈良で働き暮らすすべての男女が自らの力を発揮し、幸せや満足感を得るためには、「主体的な選択による時間」の充実を意識し、仕事と生活の双方に好影響をもたらすことが重要です。

これまでの「ワーク・ライフ・バランス」に関する施策は、生活の中にある家事・育児等の「無償労働」の要素を見逃しながら、主として、仕事と生活の時間的配分を重視していました。すなわち、「有償労働」と「無償労働」の両立を目指していたものです。

男女ともに、仕事も家事・育児等も負担が大きすぎるという喫緊の課題は、引き続き改善していく必要があります。しかし、最も大切なことは、単にこれらの時間を減らすことだけを目的にするのではなく、生活の中に「幸せ」や「やりがい」を感じられる「主体的な選択による時間」を増やすこと、また、精神的な負担感を取り除き、この時間への質的転換を促すことだと考えます。

「主体的に選択して過ごす時間」は、趣味・娯楽に代表されますが、そればかりではなく、自発的にパートナーや家族と過ごす時間も含まれることにも着目します。「家事や育児」についても、男女ともに「押し付けられている」という負担を感じるのではなく、自発的に取り組むことで、「主体的に選択して過ごす時間」へと変換することが可能です。そして、「幸せ」や「やりがい」を感じられる時間が増えることにより、仕事や生活へも好影響があるという、「ワーク・ライフ・シナジー」という好循環のスパイラルに向かいます。

この計画では、男女がそれぞれの力を最大限に発揮でき、幸せを感じることができる人が増えるよう、「ワーク・ライフ・シナジー」を「日常生活の充実と仕事の充実が互いに好影響を与えること」と定義し、企業の働き方改革の取組等を通じて、この視点に立った新しい働き方、暮らし方を経営者や働く人々に浸透させていきます。

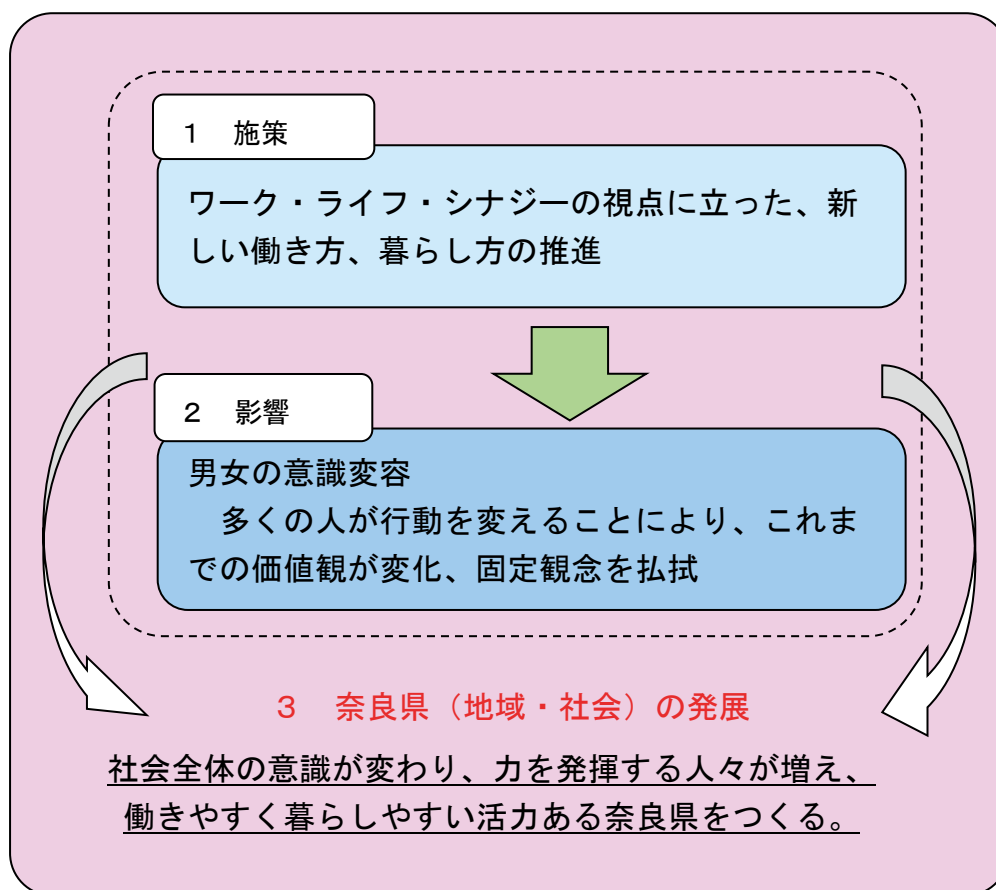
② 新しい働き方、暮らし方が生み出す男女の意識変容

新しい働き方、暮らし方の仕組みを整え、実際のひとりひとりの働き方や暮らし方に変化を起こすことにより、多くの人々の意識にも変化が生まれます。すなわち、多くの人々が、「主体的に選択して過ごす時間」を意識した「ワーク・ライフ・シナジー」を実現すれば、女性も仕事でより力を出せるようになり、男性が家事・育児にも積極的に取り組めるようになります。そして、そのように行動を変えていく男女が増えれば、周りの人々の意識への変化が起きることが期待できます。男女がともに仕事でも家事でも力を発揮できる雰囲気がつくられ、女性の活躍を阻害してきた無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）も含めた固定観念が払拭され、男女がともに新しい価値観をもつなど、社会全体に影響が及びます。

③ ひとりひとりの活躍がもたらす奈良県の発展

社会の多くの人の意識が変わってくれば、男女がともに力を発揮できる土壌がさらに整ってきます。そのような中で、多くの人々が個人の幸せを追求するだけでなく、社会の担い手として、ひとりひとりそれぞれの力を最大限に発揮するようになれば、働きやすく暮らしやすい地域が築かれ、活力ある奈良県をつくることができると考えます。

イメージ



4 評価指標

以下の10項目を、施策推進の成果を評価する指標として、目標値とともに設定します。

	指標	現状	目標値 (R7)	調査等
働き方に関する指標	1.希望した人が就業している割合(20～64歳・女性)	84.6% (H29)	90%	就業構造基本調査
	2.第一子出産前後の女性の就業継続率	52.8% (H30)	70%	奈良県結婚・子育て実態調査
	3.管理的職業従事者における女性の割合	14.5% (H29)	30%	就業構造基本調査
	4.長時間労働(週60時間以上労働)の男性雇用者の割合	13.6% (H29)	5%	就業構造基本調査
暮らし方に関する指標	5.家事関連従事時間の男女比(女性/男性)	4.7 (女237分/男50分) (H28)	2.5	社会生活基本調査
	6.企業における男性の育児休業取得率	2.0% (R元)	30%	職場環境調査(奈良県)
	7.健康寿命の全国順位(女性)	25位 (21.05年) (H30)	1位 (R4)	健康推進課調べ
考え方に関する指標	8.固定的性別役割分担意識に肯定的な人の割合	42.9% (R元)	30%	奈良県女性活躍推進に関する意識調査
	9.ワーク・ライフ・バランスの優先度 ^(*1) の希望と現実の一致割合	女45.6% 男44.7% (R元)	60% (男女とも)	奈良県女性活躍推進に関する意識調査
	10.「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のうち、複数の活動に満足している人 ^(*2) の割合	女61.6% 男66.3% (R元)	70% (男女とも)	奈良県女性活躍推進に関する意識調査

^(*1)「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の3つに分けた活動のうち、何を優先するか。(複数の活動を優先することを含む)

^(*2)「満足している」または「まあ満足している」の合計